

vol.
119
2022
Winter

市民活動情報誌

Collaboration Paper
for Voluntary Network in Ohmi

あみ ネットワーカー



〔特集〕「地域をつくる。」ってなんだろうⅡ

ONESLASH(ワンスラッシュ)
インタビュー:清水 広行さん
湖北の暮らし案内所どんどん
インタビュー:角 佳宣さん

▶紹介はP2

Contents

〔特集〕「地域をつくる。」ってなんだろうⅡ	P2~4
人と地域とつながる事業所さん	P5
VIVA! BIWAKO	P5
市民活動レポート	P6~7
未来塾16期生の虫の目・鳥の目・魚の目	P7
応援インフォメーション	P8



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

<https://ohmi-net.com/>

「地域をつくる。」ってなんだろうⅡ

前号からの連載、「地域をつくる。」ってなんだろう 第二回目は湖北地域です。

今回は、「農業は面白い」と、明るくパワフルに発信し西浅井を盛り上げる『ONE SLASH“ワンスラッシュ”』と、長浜市内の路地奥にひっそり佇み、何かにチャレンジをしたい人を応援し、イベント等を企画する『湖北の暮らし案内所どんどん』を、ご紹介します。それぞれの個性を生かしながら、どのように地域やまちにかかわっておられるのか、お話を伺いました。

ONESLASH“ワンスラッシュ”代表
清水広行さん インタビュー



大人がさぼっていないか

●ワンスラッシュのメンバー構成教えてください。

清水さん 全員、小中学校が一緒で、他に仕事も持っている兼業農家です。年齢の差はありますが上下関係は全くありません。と言うのも、この集落に育ててもらってる感じなんです。悪さをすれば集落の大人たちに怒られる。そんな背景もあって30代前後の同世代が5人、知らない間に集まった感じです。

●そこからワンスラッシュを立ち上げるきっかけは。

清水さん (清水さんが) カナダからUターンで戻ってきて、久しぶりに集落のお祭りを見に行くと、神輿も屋台もなくて、がっかりしたんです。これって子どもたちは楽しいのか?って。自分の子どもの頃は、賑やかで楽しかったのになぜだろう?と、考えたらこれは大人がさぼっているなど、気づいたんです。

●だから、自分たちでやるしかないと?

清水さん そうです。だからまず、この祭りを盛り上げようと企画しました。結果、みんなが楽しんでくれて、続けてイベントをすると、4000人の集落に3000人の人が来るようになり、地元の人たちも「何かやったほうがいい」と、気づいてくれるようになりました。

あるものを元に戻すだけ

●「諦めムード」が変わったんですね。そのムードに気づくのは、だいたい地域外の人というイメージですが、地元の人というのは稀でしょうね。

清水さん Uターンで戻ってきたことが大きいと思います。それも日本が、地元が好きで戻ってきた。だから地元をなんとかしたいと思ったし、勝負できると思いました。外に出て、様々な価値観のなかで経験値をあげていくと常識を疑うことができますからね。

●「周りの要因や角度を変える。自分たちの集落の祭りも新しくしたわけではなく、元に戻すだけ」と、話す清水さん。

そして、ワンスラッシュは『RICE IS COMEDY (米づくりは喜劇だ)』と、自らお米づくりを始め、課題が山積みの日本の農業に「自分たちの武器」と、一石を投じていきます…。

清水さん 改めて、西浅井のお米の美味しさに気がついたんです。実際に食味値(お米の美味しさを表す指標)を計ってみたらすごい数値がでた。美味しいのは当たり前、だったらそこを謳うのは止めて、もっと地元や僕たちを応援してくれる人たちに食べてもらいたい、ファンになってもらおうと思いました。



お米作りの体験も人気。
子どもたちはお米が大好きになるそうです。

もっと面白いことをやりたい。その先には…

●突然屋台が現れ、羽釜でお米を炊き、おむすびを振る舞う「ゲリラ炊飯」は、今やワンスラッシュの代名詞。その誕生を尋ねると

清水さん 街なかで米を炊いたら面白いんちゃう?ただそれだけで…。

と、笑う清水さん。

清水さん 「活動を始めた時より今、面白いか?」と、自問自答する時があります。実はこれ、軸がブレてる時。だから定期的に原点回帰をしています。そのなかで、もう一回、面白いことを考えようと思いついたのがゲリラ炊飯。その手始めに長浜市内の商店街でやってみたら、これが思わぬ反響を呼びました。



ゲリラ炊飯中! 炊き立てのご飯でおむすびを振る舞います。
これには道行く人も自然と笑顔になりますね。

●このように様々なアイデアを生み、実行に移すパワー。その原動力はなんでしょう。

清水さん メンバーが同世代で遊び仲間。ずっと地元で遊んでいる延長で、自分たちが面白いことをやっていたら、実は地域も守れることに気づきました。面白いだけなら誰にも出来るけど、面白いことをやりつつ持続可能な地域づくりの可能性も見えた。だからもっと面白いことをやりたいんです。

●「仲間」。そして何より「地元」がパワーの源のようですね。さてその地元、西浅井の変化は?

清水さん 西浅井の地域も人も自信を持ちだしましたね。集落の女性たちが起業し始めます!また、移住者も増え彼らも起業しています。他の地域から「西浅井って元気があるね」と、耳にすることが増え、それがパワーになって地域の空気は変わりましたね。

●「諦めムード」は変わる!と、地元で体感したワンスラッシュは、日本各地の「諦めムード」をゲリラ炊飯で変えたい!と、ゲリラ炊飯専用バスの資金調達と、子ども食堂などへお米を届けたいと、今年(2022年)1月にクラウドファンディングに挑戦し、見事達成。活動の場を更に広げます。

清水さん 外へもっと出していくことで、自分たちの可能性は広がると思いますが同時に、西浅井に関わってくれる人をもっと増やすことになると思っています。

と言う清水さんは、「地元を考えると滋賀県まで考えが及ぶ。」と、琵琶湖版SDGs「マザーレイクゴールズ」(Mother

Lake Goals, MLGs)」の大天使としても活躍中。

しかし、いつも原点、ゴールは「地元、西浅井」。ここが明快だからこそ共感を呼ぶのでしょうか。ワンスラッシュの快進撃はさらに続きます!

Profile

インタビュー：清水広行さん

ONESLASH"ワンスラッシュ"代表

「RICE IS COMEDY (米作りは喜劇だ)」をコンセプトに、ネガティブな空気をポジティブにと地元西浅井を中心に活動中。メンバーは全員西浅井出身。

●<https://oneslash.jp/riceiscomedy/>

湖北の暮らし案内所どんぐん 店長

角佳宣さん インタビュー



まちの秘密基地「どんぐん」

●「湖北の暮らし案内所どんぐん」どんなところですか。

角さん 湖北のプレイヤーが集う場所としてできました。

ここが出来る前は、私たちを含め若い世代が、何かやりたくても集まる場所がなかったので、まずはそんな人たちの拠り所として誕生したという経緯があります。

●それから6年、長浜の街の景色も大きく変わったでしょうね。

角さん いろんなムーブメントが沸き起こっています。その中心にこの「どんぐん」があるのではなく、長浜の街のあちらこちらに小さな渦がある感じですね。街で活躍する人たちの顔が、浮かびます。

●「どんぐん」自体、6年でどこか変わりましたか。

角さん わかりにくい場所にあるし、名前も「湖北の暮らし案内所どんぐん」でしょ? なにをやっているかわかりにくく、苦労した時期も長かったと聞きます。しかし、かかる方がだんだん増え、何と一緒にやるとワクワクするか、「どんぐん」をどう使ったら楽しいかと、思ってもらえるようになりました。かかるメンバーが利用してくださる方とともに変化を重ねています。

●「どんどん」には、シェアキッチン、ワークスペースやイベントスペースがあり、いつかお店を持ちたい人のチャレンジの場であったり、ミーティングやワークショップ会場として、様々な人が利用できるようになっています。しかし、単なるレンタルスペースではありません。



秘密基地「どんどん」の外観。

その前で自家菜園もしています。これも自ら「楽しむ」ことのひとつ。

角さん 「何かをやりたい」人を応援します。その人にとて場所が必要なのか、それとも誰かをつなぐことが必要なのか、その人の「やりたいこと」のイメージを実現化するために、「どんどん」は、出来る限りサポートさせてもらっています。

自分たちの「まち」を楽しむということ

●やりたいことをサポートしてくれる存在が身近にあるとチャレンジしやすく何より心強いものです。長浜が『まちづくり』の先進地といわれる理由はありますか。

角さん 長浜の「まち」を楽しむスタンスが、ここに住む人たちの中に浸透しているように思います。それはまた、まちを自分事として捉えているということ。だから、自然とまちのプレイヤーとして活躍されますね。これは、やっぱり長浜という土壤が大きい。地域の様々な風土や文化が、長浜のポテンシャルの高さに結びついているように思います。

ただ、もう少し踏み込むなら、もっと自分たちのまちを使って楽しんで欲しいですね。例えばイベントの参加者は、いつも当事者になってもらいたい。そこと一緒にどんどんは作っていきたいので、もう少しパワフルなプッシュも必要かな、と。これは「どんどん」の課題ですね。

●と、話す角さんは彦根在住。スタッフの多くもみな長浜以外の出身者だそうです。その長浜は移住者も多く、その方たちの活躍をよく耳にしますが。

角さん 地元の方とお互いが影響しあいながら活動されていますよ。そうやって皆さんまちを楽しんでおられます。仕事を含め本当に楽しく暮らしている人が多くて羨ましいです。

ここで何をしたいのか

●こうした長浜の魅力に仕掛けをつくるのが、運営会社である「長浜まちづくり株式会社」。昨年秋に、中心市街の町家を

改装したコワーキングスペース『BIWAKO PICNIC BASE（びわこピクニックベース）』をオープンされました。

角さん 「BIWAKO PICNIC BASE（びわこピクニックベース）」は、観光客はもちろん、立地の良さから研修やオフィスワークなどの拠点にも活用いただきたいです。ピクニックを楽しむように観光したり、新しい人の出会い、チャレンジをするきっかけの場であったりと、さらに一步先を目指すといった感じです。これから長浜をもっと知っていただき、長浜にかかわってくれる人を増やしていきたいですね。



ワークショップの様子。
いろんな人が出会い、つながる場所。

●長浜を外側に発信していくBIWAKO PICNIC BASEと、より内側の充実を図る「どんどん」。そんなイメージでしょうか。まちのなかで顔が見える関係性やお互いの連携、情報交換など手がけてこられましたが、これからは「どんどん」を、どうお考えですか。

角さん この街は、自分たちの街だよ。ということをもっと伝えていきたいですね。

私たちは、「るべき姿」を追うのではなくて、「何をしたら楽しいか」を、ベースにしてきました。だから、途中で情熱がなくなることがなく、ここまでやってこれたと思います。これからも、ずっとそうですね。と、角さんから一番の力がこもりました。

丁寧に人をつないでこられ、いつもまちと共にいる、「どんどん」。

今日も誰かの「やりたい」、「面白い」を一緒に作る、秘密基地「湖北の暮らし案内所どんどん」でした。

Profile

インタビュー：角 佳宣さん

湖北の暮らし案内所どんどん 店長

なにかに挑戦してみたい人の拠り所。秘密基地のようなシェアスペース

●〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町15-10

●TEL : 0749-53-2532

●info@dondonbashi.com

●営業時間 11:00~16:00 (毎週水・木曜休み)

●http://dondonbashi.com/

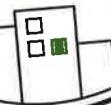
『ONE SLASH“ワンスラッシュ”』と『湖北の暮らし案内所どんどん』。それぞれの活動、地域やまちに対するアプローチ、いかがでしたか。

オリジナリティにあふれたそれぞれの活動に、いろいろヒントが得られそうですね。

「自分たちの地域、まちは、自分たちでつくれる。」次号もまた、滋賀県内の地域で活躍する団体さんをご紹介します。どうぞお楽しみに！

地域で社会貢献

人と地域とつながる 事業所さん



「宮川バネ工業株式会社」

『関心を持ち、ハードルを下げる。』地域の企業ができること。



近江商人の「三方よし」の精神。皆さんよくご存じかと思いますが、今回伺った宮川バネ工業株さんも、この「三方よし」の考え方、精神を経営理念に持つ事業所さんです。

「三方よし」のなかのひとつ、「世間よし」は、社会貢献もできる会社であること。その取り組みとして、宮川バネ工業株さんは、長年にわたり積極的に障がい者雇用を受け入れ、体験・福祉事業所への業務委託などをされています。

「雇用の受け入れにあたっては、最初は手順書を整えたり、コミュニケーションなどの不安もありましたが、やっていくうちに、これは障がい者雇用だからではなく、誰にとっても働きやすい環境、安心して働ける会社づくりをしているんだと気づきました。」と、専務取締役の宮川絵理子さん。「いつ自分も病気や、ケガをするかわかりません。みんな同じ立場。だからみんなで支え、助け合う。」と、続く言葉に、それでも実践するのは難しいのでは。と、尋ねてみると「だから言い続けています。」と、笑う宮川さん。その笑顔に、ここまで道のりを感じます。こうして、従業員さんたちのなかに自然と社会的課題や地域の問題に関心が芽生えたり、障がいの人と一緒に働くことは当たり前、そしてその働きは大きな戦力と、みなが認めあっていることに「何より嬉しいことです。」と、話す宮川さん。それには同席されていた代表取締役、宮川

草平社長も笑顔で頷いておられました。

現在、障がい者の法定雇用率は2.3%で、それさえもクリアできていない企業が多いというのが現実。その原因は様々でしょうが、「地域にある企業として、例え関心はなくても関係はあります。」と、言い切る宮川草平社長。「地域で活躍する人材を、障がいがある、ない、にかかわらずつくっていきたいですね。そのためには社員と共に地域に関心を持ち、連携しながら地域貢献を目指したいです。それが地域企業の役目。」と、様々なハードルを下げ、障がい者雇用を「当たり前」に変えながら『三方よし』の精神をあまねく実践されている宮川バネ工業株さん。しっかりと地域に根ざす事業所さんでした。



従業員の皆さん自らが、「誰にとっても安心で働きやすい会社環境」を作り上げています。

- 創業／昭和28年
- 代表取締役／宮川 草平
- 現在地／滋賀県東近江市園町31-1
- URL／<http://www.m-b-k.co.jp/>



びわ湖を味わう！

“湖魚料理”的新たな楽しみ方

ブラックバスのビネガーマリネ

ブラック バス



食材としてのイメージよりゲームフィッシングの対象としての印象が強い魚ですが、近江八幡市の沖島漁業協同組合では食用を目的としたブラックバスの加工事業が行われています。こちらは沖島周辺でとれたものを使っています。生の状態の身はほんのり透明がかかった薄灰色が混ざったような白身ですが加熱すると真っ白な身になります。味は淡白で正直これといった特徴がないので調理の幅によって様々な用途に使えると思います。



川瀬 明日望（琵琶湖とタパス）

近江八幡市沖島町の地域おこし協力隊として沖島の移住暮らし、同世代に向けた琵琶湖の魚の新たな楽しみ方等を考え、ビジュアル化し発信する事を目的に活動中。

材料(2人分)

- ・ブラックバスのフィレ … 100g
- ・かんたん酢
- ・パプリカ赤黄 …… 各1/2ずつ
- ・塩 ……………… ふたつまみ
- ・ブラックペッパー … 少々
- ・バクチ …………… お好みで
- ・トルティーヤやバケットなど

作り方

- ①ブラックバスを1センチのサイコロカットにして沸騰したお湯で2分程ボイルします
- ②ボイルしたあとは身が柔らかいので身が崩れないようゆっくりお湯から引き上げてください
- ③粗熱がとれたら、タッパーやジップロックに入れヒタヒタに浸かるようにお好みのお酢を入れて1時間程マリネします
- ④パプリカを5ミリ角ほどに細かくカットします。バクチは微塵切りに
- ⑤ブラックバスをお酢から取り出し、④と塩、ブラックペッパー、オリーブオイルなどで和えていきます



できたものをトルティーヤに乗せてタコスにしたり、バケットに乗せてブルスケッタにしたりしてお楽しみください。

まちづくり

おみやげづくりで地域の宝を発掘・活用・未来へつなぐ



草津おみやげラボは、地域のヒト・モノ・コトを出会わせる『宿場町』のような『場』を提供し、ずっと住みたい、帰ってきたいという地域への愛着を抽象した『草津おみやげ』を、子ども達と共に生み出す事業をしています。地域を知り、まちを知り、歴史を知り、本当に大切なものは何か?をリアル/疑似で体験し、楽しみながら、地域の愛着と誇りを持つ心と、みんなが安心して暮らせるつながりを作ります。

Grow&Cookで、草津おみやげレシピを考えよう!農家さんと交流し育てた野菜などを用い、食文化や食育を学び、「栄養の知識で心の安心を生みだす」、「地域の安心安全な食材でカラダを作ることの気付き」、新しい付加価値のおみやげを目指します。また、コンテストを行うことで、自分の“推し”を「投票」で関わることができ、一時的な移住者である大学生・留学生とも気軽に交流しながら、草津ならではの『健幸を気づかう』、『おもてなし』の創出ができると考えています。

次に、地域再発見アクティビティとして、草津の歴史・文化・環境を学び、子ども達の笑顔と信頼が生まれるデジタル活用を行っています。草津市内、びわ湖1周を疑似体験できる「すごろく」にクイズ・QRコードがついたカードも用いて学習を深めるツールを構築し、大学や小学校の出前講座も実施。カードはみんなの情報から増えていき、気づけば50枚以上!『びわ湖おたからトランプ』として販売も始め、今まで点在していた市内県内の資源にストーリーを持たせるきっかけとなりました。また安心してデータ活用をする練習の場として、発見を未来へ残すため開発した『くさつお宝マップ』を用いたまち探検も行っています。

「知識と技術を集めて体験を通して新しい価値を築く」、「経済活動を通してまちの未来を創造し思いを叶える」、遊びながら地域資源やサポーターと交流することで、子ども達がどんな大人になりたいかビジョンを持てるよう応援していきます。

【寄稿】大塚佐緒里さん

2022年度笑顔あふれるコープが基金採択団体

草津おみやげラボ

●代表/大塚佐緒里 ●設立/2016年
●http://kusatsuomiyagelabo.com/

Challenge



未来塾16期生の

虫の目・鳥の目・魚の目

地域の課題を発見し、解決の方策や活動を実践する「地域プロデューサー」が育つことを目指す「おうみ未来塾」。現塾生16期生は、ただいま滋賀県下において活動を展開中!その活動内容をグループごとにご紹介していきます。

第2回目は「つなごう!!KUIJI(くいじ)(食事)culture」です。

東近江の宝(食・文化)を未来へつなごう!!



「食事(くいじ)」とは、食事のことを表す滋賀の古い言葉です。私たち「つなごう!!KUIJI(くいじ)(食事)culture」グループは、東近江で古くから受け継がれた食や文化を次世代へつなぐ活動をしています!

活動を始めたときは、地域のみなさんに受け入れられるか、これからどんなワクワクが待ち受けているのか不安と楽しみが交錯していました。

活動の場に選んだ“東近江”地域は、昔ながらの田園風景が広がり、「三方よし」の精神が根づいていて、地域が進むべく道が昔から示されている貴重な土地柄です。志を同じくして一緒にになって活動してくださるみなさんは大変感謝しています。

地域の方々の協力のもと、私たちのメイン企画である「ガチャコンで郷土料理を食べに、ガリ版ホールに出かけよう!!」を去る10月16日(日)に開催しました。この企画では、近江鉄道に「ありがとう!」の気持ちを込めて手を振り、乗客の方に感動を呼ぶ滋賀県初の「フリ鉄」、高木神社のケンケト祭りの際にふるまわれる郷土料理を提供しました。



食文化を知って、ヒトにつないで「おいしく、たのしく」伝承するのが私たちの願いです。

今後も地域のみなさんとともに、思い描く理想の地域をめざして“地域プロデューサー”としての一歩を踏み出します!

つなごう!! KUIJI(くいじ) (食事)culture

【メンバー】
代表 藤井 雄人
平井 あゆみ
今村 知恵
萩 治彦
萩 克実



国際交流

ブルキナファソの教育向上と 幸福感を伝えたい



「授業研究会」をご存じでしょうか。教師の方、学校関係の方ならよくご存じかと思いますが、これは授業をより良くするための公開授業、プレゼンテーションのようなもので、日本のオリジナルとも言えるそうです。この「授業研究会」で西アフリカ・ブルキナファソと日本をつなごうと活動するB-JAPE。有志4名で立ち上げ、その代表を務める市川瑛子さんにお話を伺いました。

なぜブルキナファソ?と尋ねると、大学を卒業し、教員になる前に何か海外で面白く豊かな経験をしたいと思った市川さんは青年海外協力隊に参加しブルキナファソへ。現地の教育機関で任務にあたり、その3年目に、日本の「授業研究会」を視察し感銘を受けた現地の教員と共にブルキナ版「授業研究会」を立ち上げたそうです。しかしその後、教員不足などの問題で教育の質が低下、この質を上げるために、現場の先生が日本の「授業研究会」を実際に見て学ぶ機会が必要ではないかと思い、B-JAPEを立ち上げました。

しかし、ブルキナファソは世界でも最も貧しい国のひとつ。余程の要人しか日本へ渡れない厳しい現実があります。それでも何とかブルキナファソの先生を日本に招聘し、教育現場の向上にと帰国後も活動を続けています。同時に、国の名前すら知らず遠い存在だったけれど、心から寛ぎを感じることができ、価値観を教えてくれたブルキナファソを、もっと日本人たちに知つてもらいたいという願いも。先進国にはない「豊かさに溢れた国だからです。」と、今日一番の笑顔を見せてくださいました。

望みのあつた大きなプロジェクトもコロナ禍で断たれ、それでもなお、この想いをつなげようと奮闘するB-JAPE。メッセージをお届けします。

私たちの活動を通して、ブルキナファソの寛ぎや安心感がもたらす幸福感を感じて頂けたら嬉しいです。応援よろしくお願ひいたします!



B-JAPE

- 代表／市川瑛子 ●設立／2022年(日本での)
https://www.instagram.com/bjape_nomanoma/?igshid=YmMyMTA2M2Y3D

地域共生

人と人が出逢う 交差点をつくる



音楽活動と、誰もが安心して住みやすい街づくりを目指すボランティア団体「チームエンパワーメント」。団体の代表で作業療法士、音楽制作、マルシェの主催、サボテン屋さん…と、様々な顔を持つ田中孝史さんにお話を伺いました。

チームエンパワーメントは『医療介護福祉をポジティブに』と、『人心環境のバリアフリーな街へ』を理念に、医療・介護・福祉業界で働くメンバーが中心となり、「きつい」の言葉に代表される業界のイメージを、音楽を通して変えていこうとする活動と、誰もが安心して住みやすいまちづくりを目指し活動をされています。

音楽活動では2021年に、コロナ禍と一緒に乗り越えようと、動画配信サイトを使った配信は、新聞などに取り上げられるほど反響を呼びました。

一方、まちづくりの活動は一部滋賀県の地域共生型社会推進事業の助成を受け、「I WILL HELP U プロジェクト」として活動をスタート。これは、「I will help U (you) =私はあなたを助けています、お手伝いします」と、表示されたグッズを身に着けることで「助け合いを見る化」させようとするものです。日本人は、困っている人に声をかけることも、助けて欲しいと声をあげるのも少し苦手。このグッズを通して少しでもそのハードルが低くなれば嬉しいですね。

誰もが「支える側であり、支えられる側」。しかし、なかなか自分事にならないのは、「お互いを知るきっかけが少ないから」と、考える田中さん。そこで、垣根なしに集まれる場所としてマルシェや音楽のイベントを企画、主催されています。「楽しみのなかに、いろんなエッセンスを加えて人ととの交差点を作りたいんです。」と、社会課題を楽しく、ポジティブに広げるチームエンパワーメント。

一人一人が役割を感じ、いきいきキラキラした街を目標に活動しています。興味ある方は是非活動に参加してください。と、メッセージをいただきました。

チームエンパワーメント

- 代表／田中孝史 ●設立／2019年
<https://www.epmt.jp/>



Winter Information

市民活動を応援

する淡海ネットワークセンターの事業をご紹介します。

募集

2023年度 未来ファンドおうみ助成事業の募集

未来ファンドおうみ助成事業の募集が始まります。募集にかかる説明会を開催いたします。多くの方のご参加・ご応募をお待ちしています。

【助成事業】

- ①びわ市民活動応援基金助成
- ⑤ナカザワNEOフレンドシップ基金助成
- ②びわ湖の日基金助成
- ⑥げんさん食育NPO基金助成
- ③積水化成品基金助成
- ⑦湖国文学活動応援むらさき基金助成
- ④笑顔あふれるコープしが基金助成
- ⑧びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金助成

【応募受付期間】

2022年11月18日(金)～2023年1月13日(金)17時必着

【募集説明会&申請書の書き方講座】※申込要

大津 12月3日(土) 10:00～11:30 淡海ネットワークセンター
米原 12月9日(金) 10:30～12:00 米原公民館3B研修室
水口 12月9日(金) 14:30～16:00 水口中央公民館 視聴覚室
オンライン 12月7日(水) 13:30～15:00 ZOOM
オンライン 12月10日(土) 10:00～11:30 ZOOM

【申込】説明会申込QRまたはE-mail

(講座名、お名前、メールアドレス、

電話番号を明記)またはお電話にてお申込みください。

E-mail: office@ohmi-net.com

TEL.077-524-8440

説明会申込→



*募集案内・申請書のダウンロードはこちら→
<https://ohmi-net.com/jyosei/bosyu/>



決算講座 日常の会計処理や税務の基本等を学びます。

【日時】(会計編) 2023年1月13日(金)、(税務編) 2023年1月19日(木)

【時間】いずれの回も13:30～16:00

【講座修了後に個別相談あり(要予約)】

【場所】滋賀県立県民交流センター 206会議室

【参加費】500円／1名

お知らせ

おうみ未来塾16期生 成果発表会及び卒塾式のご案内

【日時】2022年12月10日(土)13:00～16:30

【場所】ピアザ淡海2階207会議室

成果発表会及び卒塾式は、一般公開です。多くの方のご参加お待ちしております。

お知らせ

ファンディングセミナー 2022 「寄付集めで大切なこと」

【日時】2022年12月22日(木) 13:30～15:30(予定)

【講師】戸田由美さん

【開催】オンラインセミナー(Zoom)

【申込方法】申込フォーム(QR)またはE-mail(講座名、お名前、メールアドレス、電話番号を明記)にてお申込みください。

申込みフォーム: <https://forms.gle/u5kBrhBKseKMMfl9>

E-mail: office@ohmi-net.com

申込QR→



編集後記

今回も団体さん、事業所さんから取材を通して様々なお話を伺いました。どこか皆さんのお話に共通するのは、ざっくりになりますが、いかに「自分事にできるか」でした。活動されている方は、このハードルがとにかく低い。しかし、高くするのも、低くするのも自分次第!かるーく、その一步を踏み出したいものです。(辻ゆかり)

お礼

未来ファンドおうみへ ご寄付ありがとうございます。

貴重なご寄付を賜りました皆様方に心より感謝申し上げます。この支援金は、滋賀の市民社会を良くしようとがんばっておられる市民活動団体へ助成し、皆様のお気持ちを伝えながら、おたがいさまがつながり、活きる地域を創るために活用させていただきます。

- 一般社団法人 比良里山クラブ様 「びわ湖の日基金」
- 近江通商株式会社様 「びわ湖の日基金」
- 株式会社JINEN様 「びわ湖の日基金」
- 株式会社鮮魚たかぎ様 「びわ湖の日基金」
- 株式会社タナカヤ様 「びわ湖の日基金」
- 株式会社ナカザワ様 「ナカザワNEOフレンドシップ基金」
- 株式会社山正様 「びわ湖の日基金」
- 株式会社ロハス長浜様 「びわ湖の日基金」
- 元三フード株式会社様 「げんさん食育NPO基金」
- 生活協同組合コープしが様 「笑顔あふれるコープしが基金」
- 積水化成品工業株式会社様 「積水化成品基金」
- ハヤミ工産株式会社様 「びわ湖の日基金」
- 琵琶湖汽船株式会社様 「びわ湖の日基金」
- 有限会社ノリアキ工房様 「びわ湖の日基金」
- 有限会社 豆藤様 「びわ湖の日基金」
- 匿名 「湖国文学活動応援むらさき基金」
- 匿名 「びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金」
- 匿名 「びわ湖の日基金」

(50音順)

下記の皆様から賛助会費をご入金いただきました。
厚く御礼申し上げます。

【法人・団体会員】

株式会社高山燃料、株式会社メリーデイズ、株式会社立兵衛造船所、甲賀高分子株式会社、滋賀ダイハツ販売株式会社、生活協同組合コープしが、税理士法人横井会計、琵琶湖汽船株式会社、特定非営利活動法人あめんぐ

【個人会員】

板倉 成子、遠藤 恵子、大岡 紳浩、勝身真理子、金山 昭夫、川辺 恵子、木田 桃子、北村 裕明、木村 健治、櫻田 満、笹井 仁治、里西 薫、澤 孝彦、清水 一記、洲崎トモ子、城田 義隆、菅江 克弘、大道 隆和、高山 朋子、瀧澤 正孝、竹村 健、千代 博、辻 博子、長澤 嘉徳、中野 雅之、中村 淳子、苗村 卓也、橋 俊明、橋田 卓也、原田 久明、廣部千英子、福永 忠克、藤井 紗子、堀 茂樹、松本 直樹、村岡 孝浩、村西 耕爾、日片 佳子、免 伸幸、森口 行雄、米倉 崇、匿名52名

(敬称略、50音順)

日本政策金融公庫国民生活事業は みなさまの身近な政策金融機関です。

- ・NPO法人のみなさまもご利用いただけます。
- ・新たに事業を始める方にもご利用いただけます。
- ・経営に役立つ情報をご用意しています。

新たに事業を始める方へ

新規開業ローン

中小企業・小規模事業者のみなさまへ

国の事業ローン

お子さまの教育資金を必要とする方へ

国の教育ローン

お問い合わせは



日本政策金融公庫 国民生活事業

大津支店 国民生活事業 TEL 077-524-8442

彦根支店 国民生活事業 TEL 074-210-2015

お気軽にご相談ください。

日本公庫

検索

※118号で紹介させていただいた「放課後等デイサービス ないろ」さん。
お名前を間違って掲載していました。ここに訂正しよ詐び申し上げます。

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

発行日／2022年12月1日 発行所／公益財団法人 淡海文化振興財団

〒520-0801 大津市における浜1-1-20 ピアザ淡海2階

TEL:077-524-8440 FAX:077-524-8442

<https://www.ohmi-net.com> E-mail: office@ohmi-net.com

開館日：市民活動ふらっとルーム／火～土曜日(火～金曜日の祝日は休館)

事務所／火～日曜日



この印刷物は大豆油インクを含む植物油インクを使用しています。